

STAGE+を楽しむ(250)(HP 収載)  
—モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番—

1. 始めに

前報(249)に引き続き、STAGE+のバティアシュヴィリによるモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》などの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のバティアシュヴィリによる(モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》などの演奏を選びました。

パッパーノ指揮ロンドン交響楽団

再配信 2025年5月26日 9:00

再配信 2025年5月26日 20:00

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトとリヒャルト・シュトラウスには大きな共通点があります。2人はかつて神童と呼ばれ、メロディとウィットに対する天賦の才能に溢れていました。シュトラウスの壮大な音楽的自伝である《英雄の生涯》と《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》はスケールの点で隔たりはあるものの、両者とも皮肉めいた部分を持っています。一方、モーツァルトが10代の時に作曲したヴァイオリン協奏曲第5番は、リサ・バティアシュヴィリのようなスタイリッシュかつ想像力豊かなソリストにとって、うってつけのレパートリーと言えるでしょう。この華麗なプログラムとロンドン交響楽団の新しい首席指揮者、アントニオ・パッパーノの劇場で培われたセンスが生む化学反応に、ぜひご期待ください。

ソリスト:

リサ・バティアシュヴィリ (ヴァイオリン)

演奏:

ロンドン交響楽団

指揮:

アントニオ・パッパーノ

曲目:

リヒャルト・シュトラウス

交響詩《ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》 op. 28

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲第5番イ長調 K. 219 《トルコ風》

リサ・バティアシュヴィリ(ヴァイオリン)  
リヒャルト・シュトラウス 交響詩《英雄の生涯》 op. 40



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

5月26日 9:00 からの再配信を試聴しました。

シュトラウスの交響詩《ティル・オイレンシュペーゲルの愉快ないたずら》は、お馴染みの曲で、シュトラウス得意のしかけのあるユーモラスな曲です。

モーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番《トルコ風》は、これもお馴染みの曲で、バティアシュヴィリのストラディヴァリウスが伸び伸びと歌います。

シュトラウスの交響詩《英雄の生涯》は、シュトラウスのスケールの大きい絢爛たる音の洪水のような曲で、パッパーノ指揮ロンドン交響楽団が壮大に展開します。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、バティアシュヴィリのストラディヴァリウスの音色を活かした演奏と

パッパーノ指揮ロンドン交響楽団のスケールの大きい演奏を聴くことができました。

以上